

第 29 回全国小学生作文コンクール

「わたしたちのまちのおまわりさん」

受賞名：優秀賞（高学年の部）

タイトル：一人で管内を守るお父さん

氏名： 富田 真美（トミダ マミ）

小学校名：静岡県 南伊豆町立南中小学校 六年

私の家は、海と山と川に囲まれた駐在所です。だから、台風が近づいた時はいつも、避難場所の小学校に避難しています。

昨年十月、大型で最強クラスの台風十九号が私の住んでいる伊豆半島に近づいてきたので避難場所の小学校に避難しました。

いつもはうちの家族とあと二、三家族しか避難していないのに、今回は体育館いっぱい人が集まりました。私は初めて、ダンボールでしきりを作ったあと近所の人や友達と過ごしていました。

なぜ今回、こんなに人が集まったかという、いつも避難しない人や一人暮らしのお年寄りの人の家を一軒一軒お父さんが、

「避難してください。」

「危険なので避難してください。」

「大丈夫なので一緒に避難しましょう。」

と声をかけてまわったからです。そして、車を運転できない人や高台にある避難場所まで坂道を登ってこれない人をパトカーに乗せて運んだからです。

台風が近づく前に、お父さんは管内の人を安全に避難させていてすごいと思いました。

この前、社会見学で危機管理庁舎に行きました。そこで、先生が、

「災害は止めることはできないけど、命を失うことを止めることはできる。」

という話をしてくれた時、台風の時のお父さんの行動を思い出し、お父さんはやっぱりすごいなと思いました。

体育館に避難してお昼になって、ごはんを食べる時、お父さんが家でたいてきたごはんはと非常用バックの中から缶詰を出して家族七人分のごはんを用意してくれました。この時、お皿の上にラップをひいてその上にご飯をのせていました。お父さんはその理由を

「今日の台風では水が使えただ、災害が起きて水が出なかった時、ラップを使えば、お皿を洗わなくてすむからだよ。」

と教えてくれました。

今度は私がみんなの役に立てるように覚えておこうと思いました。

お父さんは、制服を脱いだあともがんばっています。休みの日に来るお客さんや夜の電話にでるだけではありません。悪い人をつかまえたり、自分の体を守るため、手のひらく

らいの大きなあざを作りながら、剣道やたいほじゅつのくんれんをしています。

あと老人会によばれた時のために、オレオレさぎなどの紙しばいを作ったり、老人会をもっと楽しんでもらうために演歌もたくさん歌って練習しています。練習しているお父さんはニコニコしています。

お父さんは毎日、よろいのように重たい防だんチョッキを着て、コロナ対策でマスクもつけて暑そうです。それに私がバスで学校に行くときは、バス停に立って見送ってくれます。これからも元気で、私が大人になっても、今の駐在所で働いていてほしいです。